

各診療科推奨モデルコース

放射線腫瘍専門医養成コース

モデルコースの研修順は一例で、実際の研修順は異なる場合があります。

必修内科

必修救急

選択必修

選択

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内科			外科 (選択1)			内科			救急			放射線腫瘍科			選択3			産婦人科 (選必1)		選必3		小児 (選必2)	
												← 地域医療 (週1) →											

(コメント)

放射線腫瘍科は、全身の腫瘍性疾患を取り扱う。初期研修の2年間では幅広い知識を習得すると共に放射線腫瘍科的な疾患の捉え方を学ぶ機会を設けている。放射線治療の対象となる疾患を多く経験できるという点では、内科系では消化器、呼吸器、血液の各内科が、外科系では消化器、呼吸器、乳腺・甲状腺・内分泌、脳神経、泌尿器、耳鼻、婦人科の各外科がお勧めである。選択2では再度放射線腫瘍科を選ぶことも可である。